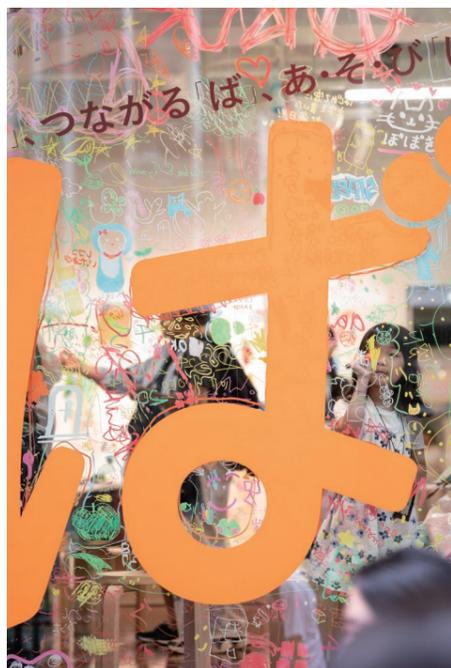


「ばばば」新聞

創造する「ば」、つながる「ば」、あ・そ・び「ば」

「ばばば」とは……

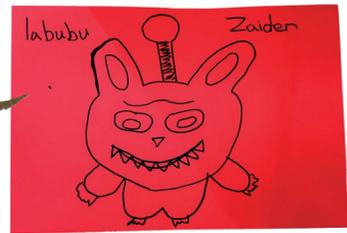
創作する「ば」、出会った人とつながりをつくる「ば」、そして子どもたち（大人たち）のあそび「ば」になる、みんなの創造的な「ば」づくりです。好きに絵を描いたり、立体物をつくったり、何も作らずにみんなの作品を見てひと息つきに来る人も……。それぞれの人たちが自由に過ごせる場所を目指しました。子どもたちを中心にさまざまな人たちがかわることで、何もなかった「ば」が参加者の創作物で埋まり、日ごとに変化し続けていった約1ヶ月の（ごく一部）の記録です。



「ば・ば・ば」 ギャラリー

子ども、観光客、家族、障がいのある方、学生たち、通りすがりの人たち、一人で来た大人、何度も通ってくれた親子……。多様な人々が自分たちのペースで、手と頭を動かし、思い思いの創作に挑みました。

始まりはここから。



ストリートアートを描いていそうな高校生三人組がガラスにたくさんグラフィティを描いていました。



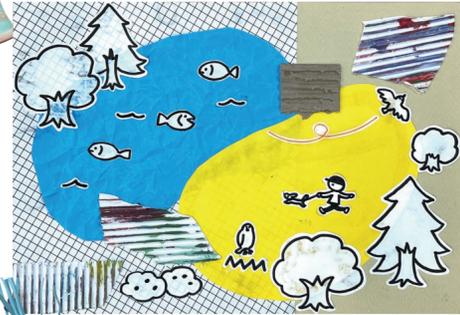
創作を見守っていた「ば・ば・ば」スタッフたち。(阿部泰明、亀井友美、鈴木あかり、堤 郁子、水澤汐音)



展示を見てからいらしたフランス人のご家族が、展示作品から影響を受けたと紙を丸めて毛糸やリボンを巻き付けた素敵なオブジェをつくっていて、娘さんも真似して同じようなものを作っていました。



今日は160まで数字をたくさん書いて最高って思いました。(来場者アンケートより)



お父さんが建築家の男の子が会期中に3回も来てくれて、大きな作品をつくってくれました。



香港から旅行中の家族、代官山在住の子たち、京都、北海道と様々な地域からふらっと訪れて作品を作っていました。



「ば・ば・ば」に集った様々な方たちによるコメント

Excellent program! We are expats from the United States living in Tokyo and happened to walk by the store while shopping. This was so fun for the kids, and really helped with my sons confidence!

(素晴らしいプログラムですね! 私たちはアメリカから来て東京で暮らしていて、買い物中にたまたまお店の前を通りかかりました。子どもたちも楽しんでいて、息子の自信にも繋がりました!)(来場者アンケートより)

近所の リピーターの方が多い。口コミで聞いてきた方もいる様子。今日は、やることリストを作って持ってきた子がいました。(スタッフ振り返りより)

子ども 2人をつれて参加させていただきました。自由に材料も使わせていただき、家ではできない(やらせられない)環境で、たくさん創作でき、ありがたかったです。(来場者アンケートより)

ずっと こういう場があればいいのに (ば・ば・ばのネタ帖より)

北海道 から東京観光で来ていた家族が休憩がてら来ていて、絵の具を使ってリフレッシュされていました。(スタッフ振り返りより)

作る 人がいなくても作る人のために準備する時間もふくめて「ば・ば・ば」なのだと思います。(スタッフ振り返りより)

工作 好きの娘さんとお母さんが3時間くらい集中し11個もつくっていました。(スタッフ振り返りより)

渋谷 の真ん中のこの空間でふらっとアートできるのが楽しかったです。(来場者アンケートより)

専属 スタッフがみんな子どものつくる作品の良さを知っている人ばかりで、親だけではなくそういう大人が見守っている環境だからこそこのびびと創作できると思った。(スタッフ振り返りより)

最初は 緊張していた子が、発泡スチロールを分解して雪のようにして遊び出したらテンションが上がっていました。(スタッフ振り返りより)

いつも は人見知りする子が、空間がいいのかすごく楽しそうにしていました。(ば・ば・ばのネタ帖より)

材料について

Kids meet 05「ば・ば・ば」では、使用する材料として事業内で出た廃材(段ボールや梱包材)などを活用し、材料の循環を考えました。参加者が制作し展示した創作物は、後に解体され、他の人の材料になり、また別の創作物として生まれ変わる予定でしたが、解体する間もなく創作物たちが空間を埋め尽くしていきました。



みんなで「ば」を記録

会場内に誰でも使えるレシートタイプのデジタルカメラを設置。みんなが撮影した「ば・ば・ば」の記録です。



小池アミイゴのだれでも絵が描けるワークショップ「みんなセーノできもちい絵を描こう!」

会期中3日間にわたり渋谷のまちを歩いてスケッチをしたり、みんなで大きな絵を描いたり、ギャラリーの素材を使って生き物をつくったり。みんなで創作に取り組みました。

9月28日[日]「シブヤ街歩きスケッチ」



10月11日[土]「シブヤスクランブルセッション_きもちいい!」



10月19日[日]「シブヤ子どもレヴォリューション」



しゅわえほん

会期中に2回(10月4日/25日)、ろうの鑑賞サポーターが手話で絵本の読み聞かせをしました。



創造する「ば」、つながる「ば」、あ・そ・び「ば」

子どもを中心として集まれて、その「ば」を共有する人たちと交流できる「ば」があるといいな、から始まったKids meet 05「ば・ば・ば」~創造する「ば」、つながる「ば」、あ・そ・び「ば」~、通称「ば・ば・ば」。9月27日から約一ヵ月間、公園通り沿いの大きな窓がある交流スペースにその「ば」を開いた。事業で出た廃材を素材に自由に工作したり、絵を描いたり(窓にも!)できる創作の「ば」である。平日は、幼児親子が数組のんびりと過ごし、同時開催の展覧会を親に来たついでに立ち寄った大人たちがふらっと訪れる、ゆったりとした「ば」が、土・日になると小学校低学年中心の親子連れや、窓越しに見て楽しそうだったからと入ってきた通りすがりの大人たちでにぎわった。旅行者が多い渋谷の街らしく、海外からの家族も窓に重ねて描かれた絵につられ、「ば・ば・ば」で創作を楽しんでいた。日本を訪れた思い出のひとつとして記憶してくれたら嬉しい。

会期中中盤になると、来てくれた親子連れの口コミでその友達を呼び「ば・ば・ば」は広がっていった。リピーターの子どもたちもちらほら登場し、初めて来場した子どもに材料の場所を教えたり、道具の貸し借りをとおして交流する姿も見受けられた。大人も同じで、材料を提供してくれる常連さんも現れ、子どもたちの様子や「ば」の成長を見守ってくれた。

渋谷という街には、たくさんの楽しめるスポットはあるのかもしれないが、親子連れが気軽に参加できて過ごせる(時間をつぶせる)「ば」が多くはないのだろう。来場した親御さんからもそのような話をよく聞いた。小学校高学年から中学生の参加が少なかったのは、

年齢によって渋谷の街での過ごし方に違いがあるからで、お兄さん、お姉さんの買い物につきあって、その待ち時間を「ば・ば・ば」で過ごしていた弟や妹たちが多かった。定期的に来てくれた親子連れの中には、創作活動を見守ってくれていた「ば・ば・ば」スタッフに会いに来ていた子どももいたかもしれない。「ば・ば・ば」スタッフは親御さんともよくおしゃべりをしてきたようだ。受入れ側の雰囲気づくりも、参加者が安心して創作を楽しめる「ば」を育ててくれた。

学校や放課後クラブ、家以外に街中で子どもが安心して過ごせる場所の必要性。展示を見る「ば」としてだけでなく、人がかかわり合いながら過ごせる、街の中の居心地のいい場所として「ば」を育てていく取り組みが求められているのかもしれない。常設してほしいという声もあった。

最終日にもなると「ば」は、子どもたちや大人たちの創作物で埋め尽くされた。アーティストの小池アミイゴ氏と実施した3回のワークショップの創作物も「ば」に花を添えてくれた。

当初がらんだら「ば」は、参加や協力をしてくれた人々によって創作をとおして人とつながる「ば・ば・ば」となった。「ば・ば・ば」に住みたい、「ば・ば・ば」大好き、おうちで「ば・ば・ば」するって言ってくれた子どもたち、子どもたちを見守りながら楽しんでくれた大人たち(スタッフも含まれます)、ありがとうございました。またいつか「ば・ば・ば」で会いましょう。

竹野如花(東京都渋谷公園通りギャラリー)

子どものプログラム Kids meet 05「ば・ば・ば」
~創造する「ば」、つながる「ば」、あ・そ・び「ば」~ 2025.9.27(土)~10.26(日)

会場=東京都渋谷公園通りギャラリー 交流スペース
開館時間=11:00~19:00 休館日=月曜日(10月13日は開館)、10月14日
対象=幼児親子~昔キッズだった人たち 入場料(参加料)無料
主催=東京都渋谷公園通りギャラリー(公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館)

発行日=2026年1月
撮影=加藤 甫、東京都渋谷公園通りギャラリー(「ば・ば・ば」スタッフ他)
編集=上條桂子 デザイン=川村格夫 印刷=株式会社ユー・ホウ
企画・発行=東京都渋谷公園通りギャラリー

東京都渋谷公園通りギャラリー
Tokyo Shibuya Koen-dori Gallery

X|@skdgallery
Instagram|@skdgallery_tokyo